



台湾南部地震(0206 震災)義援金 ご協力ありがとうございました!



槌音
街づくりまんぼう
石巻市文化協会
ISHINOMAKI2.0
松島町国際交流協会
チーム中越
たかとりコミュニティセンター
野田北ふるさとネット
潮流プロジェクト
阪神・淡路大震災「1.17 希望の灯り」
被災地市民交流会

総額 450 万円を上回る

2016年2月6日深夜3時57分、台湾高雄市美濃区を震源とするマグニチュード6.4の地震で、台南市のマンションが倒壊し116名の死者が出るなどの被害が発生しました。これまで台湾の被災地と交流を続けてきた、私たちNGO団体の義援金呼びかけに対し、多くの方々から温かい支援をいただき、総額450万円を上回る募金が集まりました。皆さま方のご協力に対し、心より感謝申し上げます。有難うございました。

地域教育に取り組むNGO、「台南市社區大學研究發展學會」に寄贈

寄贈先は、これまで交流を重ねてきた廖嘉展・新故郷文教基金会董事長や黄世輝・中華民國社區營造学会理事長など多くの関係者の協力のもと、私たち民間のNGO団体にふさわしい寄贈先を検討していただきました。そして、台南市当局(曾旭正副市長)のご意見も踏まえ、社団法人台南市社區大學研究發展學會に決定しました。

「社區大學」は、民間組織が運営し、政府が支援する台湾独特の「コミュニティカレッジ」です。現在、台湾各地に100以上の社區大学があり、地域の社会教育を推進すると共に、地域の課題に対しても関心を持って様々な活動を行っています。

低地では液状化の被害も深刻

今回の地震では、台南市に大きな被害があり、永康区にある維冠金龍マンションの倒壊などにより116名の死者が出たほか、海に近い安南区では液状化により967戸の建物に被害が出ています。液状化の被害については、報道が少ないためあまり知られず、支援も届いていないのが実情です。寄贈先の台南社區大学は安南区などを中心に市民教室を展開し、地域の課題に対し積極的な活動をしてきましたが、震災後は直ちに液状化した地域の震災調査を行うなど復興に尽力しています。



3月8日、台南市で贈呈しました！

震災復興まちづくり、地域防災教育などに役立ててください

3月8日、私たちの代表（被災地市民交流会・垂水英司、小林郁雄、石井修、阪神・淡路大震災「1.17 希望の灯り」藤本真一）が台南市を訪れ、関係者の集まるなか、台南市社區大學研究發展學會の代表に、震災復興まちづくり、地域防災教育などの活動費用に役立ててくださいと「贈呈目録」を手渡しました。（写真上から1、2枚目）

これに対し、台湾側からは、台南市社區大學研究發展學會、中華民國社區營造学会、新故郷文教基金会の3者連名の感謝状が各団体宛に贈られました。厚い木版に文字やロゴを掘り込んだ立派なものです。この後、藤本さんから「1.17 希望の灯り」の活動を紹介、最後に集合写真を撮ってこれからの交流を約しました。「台南、加油！」（1ページ上段写真）



二つの被災現場を視察

贈呈式の前後には、二つの被災現場を視察しました。贈呈式の前に訪れたのは、日本でも大きく報道された倒壊マンションで、建物は既に取り除かれ現在整地中です。案内していただいた永康区崑山里の里長さんは、倒壊したマンションの住民だけでなく、周辺の住民たちも心に大きな傷が残り、そのケアが大きな課題と話されました。（写真上から3枚目）



次に訪れたのは、安南区の鹽水溪（汽水域）沿いの低地住宅街で、安南区役所の責任者の方から説明を受けました。あちらこちらで家が傾き、道路や壁などに亀裂が入っています。一部の建物はジャッキアップや基礎地盤への注入による修復を施行中ですが、今後まち全体の安全対策をどうするか、まだ先が見えない状況です。（写真下から2枚目）



地域の廟（海尾朝皇宮）でフォーラム

この日の夜は、地域の廟（海尾朝皇宮）でフォーラムが行われました。この廟の中には、台南社區大学の台江分校の教室があります。垂水、小林、石井が、「台湾と日本の被災地交流」、「復興まちづくりと台湾」、「野田北部の紹介」などの話をさせてもらいました。夜のお寺の中での勉強会、とても雰囲気がありました。（写真下から1枚目）



新たなネットワーク「南不倒学堂」がスタート！

私たち日本の被災地からの寄贈が契機となり、新たな動きが始まりました。台南市社區大學だけでなく、倒壊マンションのある永康区にある社區大学、中華民國社區營造学会、新故郷基金会、天主教台南教区等を横に繋ぐネットワークが始動しました。「南不倒」は、「台南は倒れない」という意味で、強くしなやかなコミュニティ作りを目指して活動します。既にfacebookのページがありますので、「いいね！」をしてください。